

## ～ 会派の活動を報告します ～

### 市民ベースの会

当市が直面する「可燃ごみ有料化」について、愛知県瀬戸市（令和5年9月より燃えるごみ・燃えないごみ、共に有料化実施。ごみ処理手数料が含まれている販売価格、令和5年6月「ごみ袋の価格値上げ凍結・価格据え置き」の条例改正案可決。）を1月27日に会派で視察しました。

視察内容は、有料化の実施経緯、価格やごみ袋の容量設定（ごみ袋の原価、諸手数料等）、市民への周知方法と反応、有料化後の市民の行動変容、清掃ボランティアや福祉対策・配慮、家

庭系ごみ排出目標数値設定等の有料化全体における課題を事前質問という形で伝え、詳細に渡り丁寧な説明と、質問に対する回答やノウハウをご教示いただきました。

特に学ぶべき点は、全国自治体が抱える課題は同様ではあるものの、環境省循環型社会形成推進基本計画に示されている「1日1人当たりの家庭系ごみ排出量の目標440グラム」に近づける施策、ごみ処理施設の老朽化や今後見込まれる処理費用の増加等の課題に、市民目線で「市長自ら立ち止まり、ごみの推移を見つつ、オール瀬戸で今後のごみの減量の在り方をしっかりと考え実行していく」

という市長の姿勢であります。当市はSDGs未来都市としてゼロカーボンシティの目標があります。それ故に、可燃ごみの減量化とプラスチック分別の正しい見識と行動、そして、市民の理解が得られる事業の推進が必要です。そのために、当会派は先進事例の研究をさらに進め、知恵を絞り、住民自治の実践を行っていきたいと思います。



### 真政会

10月17日～18日、姫路市の「アクリエひめじ」で開催された、第86回全国都市問題会議に参加しました。

今回のテーマは、「健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～」でした。

基調講演を行った生物学者で青山学院大学教授の福岡伸一氏によると、生命体は自らを積極的に壊し続け、またそれを作り直すことでバランスを保っています。これを動的平衡と呼び、まちづくりも同様にプラスチックやコンクリート塊などが壊されることを予定し、つくること

が必要であると述べられました。

主報告は姫路市長の清元秀泰氏がされました。姫路市は面積534平方キロメートル、人口は約52万人の中核都市です。人生100年時代の到来に向け、健康づくりの重要性を感じ、介護予防、ウォーカブルなまちづくり、ICTの活用、未来を担う子どもたちの健やかな成長の支援などを進めています。

一般報告では、千葉県流山市の井崎義治市長の報告がありました。流山市は、つくばエクスプレスの沿線開発により2021年まで6年連続人口増加率全国1位を記録し、緑が失われていく中で少しでも回復できないかが課題でした。そのため、グ

リーンチェーン制度を導入するなど、全ての施策に健康視点を取り入れたまちづくりを推進されてきたとのことでした。

他の報告やパネルディスカッションも行われ、大変有意義な会議であり、今後のまちづくりに生かしていきたいです。



市長への予算要望

黒川 輝男 園部 増治  
青木 和夫 稲葉 貴大  
齊藤由美子